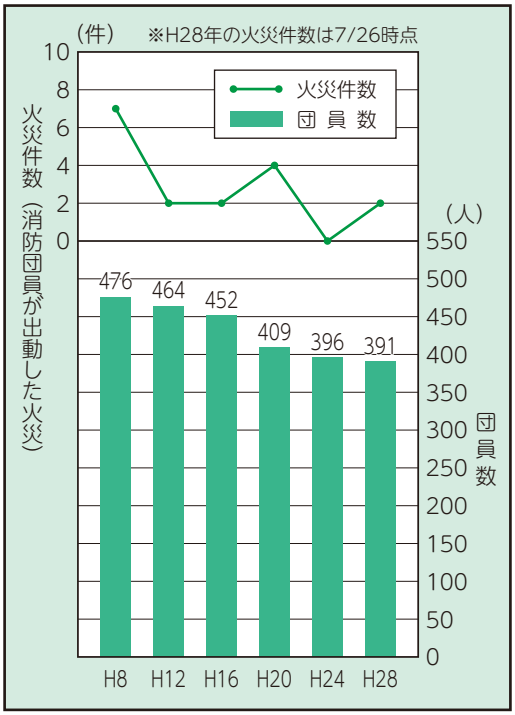
誇り高き「金山町消防団」

6月26日午前4時10分頃、飛森地内で火災が発生。奇しくもその日は、消防操法大会の当日でした。駆けつけた多くの団員の手によって、迅速な消火活動が行われました。操法大会で、町消防団の柿崎久芳団長（内町）は、「本日は早朝の火災発生にも関わらず、迅速な対応に感謝する。どの各分団も基本に則った素晴らしい操法だった。機械器具の操作に手馴れているかどうかで審査に差がでたが、町消防団全体で見れば、管内トップレベルの質だ。日頃の訓練の賜物だろう。」と、消火活動へのねぎらいを含んだ講評を述べました。

火災の発生に備えて、このような訓練を行いますが、火災を未然に予防し発生させないことに勝るものはありません。しかし、左図のとおり、町内において、無火災の年もありますが、残念ながら毎年数件程度火災が発生しているのが現状です。



安心と安全
地域防災の大きな力

一方、町消防団員は近年著しく減少しており、今年度は391人となっています。476人に及んでいた20年前と比較すると、約2割も減ったことになります。この背景には、若年人口の減少が大きく影響していると考えられます。また、勤務形態の多様化が進み、町外へ勤務するサラリーマンの方も増加しており、その中には「普段仕事でほとんど金山にいないから…」と有事の際に駆けつけられないという後ろめたさから、入団に消極的になっている方も多いようです。

サラリーマンの消防団員が増加している中で、団員の減少を食い止めるためには、団員を雇用する事業所等と連携し、消防活動をしやすい環境の整備をさらに進めることが重要と考えます。また、高齢化が著しくそもそも若い人の数に限界がある地域においては、消防団OBが先頭に立ち自主防災組織の活動を活発化させることも必要不可欠でしょう。

このように課題が多い状況でも、消防団は火災に限らず、震災等の災害発生時にも重要な存在です。4月に発生した熊本地震においても、現地消防団の活躍が際立っていたと報告されています。当町消防団でも団員は減少していますが、できることに限界はありません。「金山町」の看板を背負った誇り高き消防団の活躍を期待しています。